

開催地名：大分県別府市	
開催日時	令和2年1月19日（日） 10：00～12：00
開催場所	別府市公会堂
語り部	草 貴子（宮城県仙台市）
参加者	自主防災会長、防災士、住民 約150名
開催経緯	災害における協働の重要性について、過去の事例や具体的な取組（平常時の防災活動、自主防災組織、東日本大震災時の避難所の様子や運営、女性目線での防災活動、東日本大震災後の自主防災組織等の取組の変化）を交えて、自治会や自主防災組織を中心とする市民にアドバイスをしていただききたいと考え、実施することとする。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>一般的に災害が発生すれば、その規模や死傷者数、避難者数等の被害状況の数値により、その災害の悲惨さを判断してしまう。東日本大震災のように多くの方が悲惨な思いをした災害がある一方で、昭和61年の8.5水害のように3軒だけが被害を受け、一部の方のみが悲惨な思いをした災害もある。8.5水害により、仮設住宅のプレハブに住んでいた両親の胸の内を思うと、本当に切ないものがある。被災者一人ひとりの悲惨さは、災害規模の大小では判断できない。たとえ小規模な災害であったとしても、自分の生まれ育ったまちや家、そして大切な人を失うことはとても悲しいものである。</p> <p>東日本大震災のような大きな災害だけでなく、あらゆる災害がもたらす悲しみや苦しみ、辛さは、できれば経験したくない。ここに住んでいれば、大きな災害は来ないだろうと思っていたとしても、いつ、どこで災害が発生するかは誰もわからない。もし被災しても、自分が得た知識や知恵を冷静に発揮する備えがあれば、国が広める、市が広める、町が広める「防災」、「減災」への一助になるものと信じている。</p> <p>（2）市名坂東町内会の紹介について</p> <p>市名坂東町内会は、現在加入数186世帯の町内会で、働き盛りの40～50代の方の比率が高く、単身赴任の家庭が多い環境のため、必然的に私たち女性が立ち上がり、つくり上げた町内会である。</p> <p>町内会の3つのスローガンを作るときに、地域住民相互の連帯・協調・主体性、防災活動、子育て支援とふるさとづくりと掲げた。防災に力を注ぎ、併せて、身の丈にあった町内会、オリジナリティーのある町内会を目指し、活動を行っている。</p> <p>（3）震災における問題点と反省点をふまえて</p>

町内会に入会していないマンションの方々をどうすべきか。町内会には、転勤族で若い家族が多く、親戚もいないケースが多い。夫が会社に出勤している間に災害に見舞われた今回のようなケースを想定し、その年の11月から未就学児を持つ若い母子を対象に、集会所を開放して週1回の子育て支援をスタートした。まちづくりは人づくりであり、人づくりは、人と人とのつながりである。また、弱者は老人、障害者、子どもだけではない。乳飲み子を抱えたお母さんも弱者であると思う。手づくりでポスターを作ったり、集会所で茶話会を開催して口コミをしたり、地道な活動を展開しているところである。

さらに、様々な取組の中で、コミュニケーションだけでなく、防災について考えていただくようにしている。震災時に、お店やガソリンスタンド、病院などの位置がよく分からなかったという経験から、防災便利マップを作成したり、消防署にお願いして、子どもを抱えているため市のフォーラムに参加できない母子に対し、講話を企画したりしている。お母さんは何を感じ、どうしていたか。お互いが知恵を出し合って、完璧な答えがでなくても、その過程を大切に、少しでも前に進めていきたい。人として、女性として、お母さんとしての重要な役目があり、それをお手伝いするのも、また、わが町内会が望む子育て支援の一環であると自負している。

市名坂小学校の6年生には、毎年卒業間近の3月に出前講座を実施し、なぜ、避難所運営委員会ができたのか、守られる側から守る側に成長した彼らに出来ることは何なのかについて、話をしている。

東日本大震災だけでなく、あらゆる災害がもたらす悲しみや苦しみ、辛さに、自分だけでなく、家族や知人が巻き込まれないよう、防災・減災に対する心構えを大きく保っていくことが大切である。是非そのような観点で災害に対して考え、準備する気持ちを持っていただきたいと切に望んでいる。



開催地より

地域での取組事例はとても参考になるものも多く、ためになったと思う。女性が積極的に防災活動に参加していくことは、今後絶対に必要なことであると改めて認識できた。